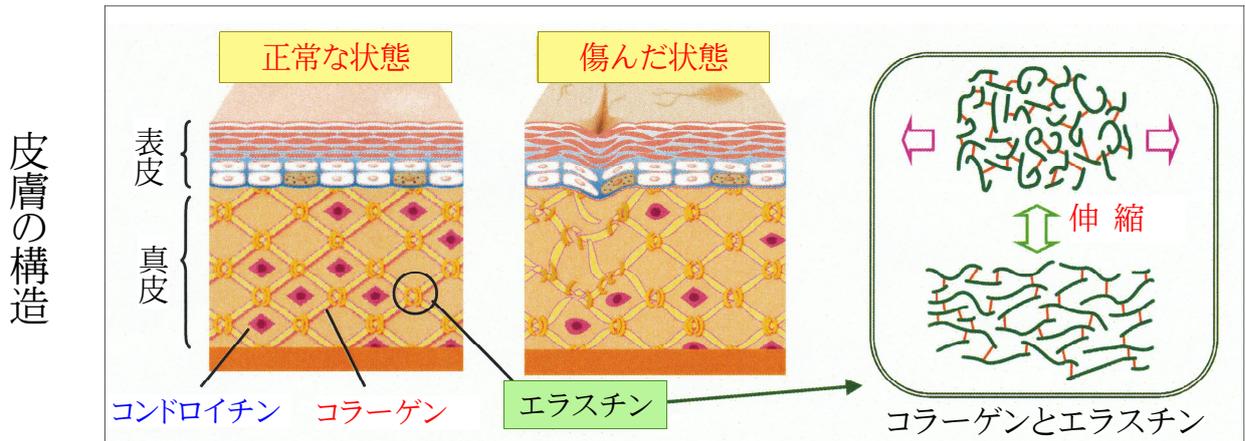


エラスチン・ペプチド



お肌の弾力性を保つエラスチン

お肌の弾力性と張りを保持

お肌の張り・弾力性・潤いは若さの象徴です。それらの成分は、**エラスチン**(弾力性)・**コラーゲン**(張り)・**コンドロイチン硫酸**(潤い)でお互いに助け合っていて働いています。上の図のように、お肌は表皮と真皮からできていますが、真皮にはコラーゲンが網の目のように交差し、そのコラーゲンをエラスチンが結びつけ、コラーゲンの網の目を伸び縮みさせるので、肌の張りを保ち、しわやたるみを防いでいます。



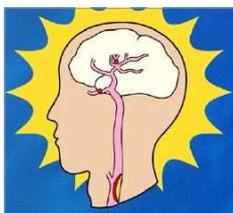
●コラーゲン・エラスチン・コンドロイチンは結合組織と呼ばれ、血管・眼・肺・胃・腸・靭帯・腱・子宮・骨・軟骨など、体の殆ど全ての場所で必要な成分です。例えば、**魚の目**などは皮膚の弾力性が失われて堅くなる事が原因です。エラスチンを摂ると皮膚に弾力性が増して、魚の目が改善されます。



血管を丈夫にするエラスチン

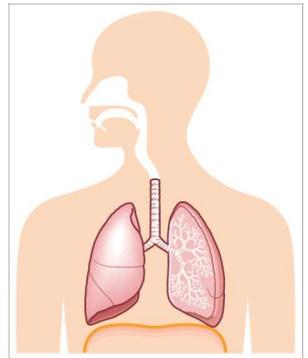
高血圧による脳卒中の予防に

血圧が高いと、血管の弾力性が失われて血管が切れやすくなります。脳出血は**高血圧**をベースに発症します。エラスチンは動脈の主成分で、コラーゲンと共に血管を丈夫にして**脳卒中**を予防します。



心肺機能を高めよう

“**心肺機能**”が衰えてくると、階段を登る時に息切れを感じてきます。肺は酸素を取り入れ、心臓は酸素を全身に送る働きをしているので、心肺機能が衰えると**酸欠**になりやすく疲労してきます。肺も心臓も“**収縮**”する事でその機能を果たしています。収縮するには**エラスチン**が最も重要な働きをしています。血圧が高い状態が続くと、心臓や血管に負担が大きくなり、心臓では心臓の筋肉が肥大する“**心肥大**”、血管では血管が硬くなる“**動脈硬化**”が進行します。その結果、不整脈などが出やすくなり**脳梗塞**の原因になります。



運動機能を高めよう

エラスチンはコラーゲンと共に、骨と骨を支える“**靭帯**”骨と筋肉を支える“**腱**”の主成分です。足腰が衰える年齢の方や**スポーツ**で靭帯や腱を酷使する方がエラスチンを摂ると、運動能力を高め怪我のリスクを減らすことが出来るでしょう。

